

中国保険業界におけるインシュアテック(InsurTech)の動向



山田コンサルティンググループ株式会社

目次

1. 中国保険業界及びインシュアテックの概要

- 中国保険市場規模
- 中国保険市場の潜在性
- 中国保険業界の課題
- 中国インターネット保険市場規模
- インシュアテックの定義と世界のインシュアテック分野における資金調達動向
- 中国インシュアテック分野の投資及び資金調達動向

2. 中国インシュアテック分野の代表企業紹介

- 従来型の保険会社 平安保険
- インターネット専業保険会社 衆安保険

3. インシュアテックが中国保険業界にもたらした変化

- 顧客満足度の向上
- コスト削減の実現
- 新しいエコシステムの構築

4. おわりに

- 日本企業が中国保険業界から得るヒント

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものですが、弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分:SC-B

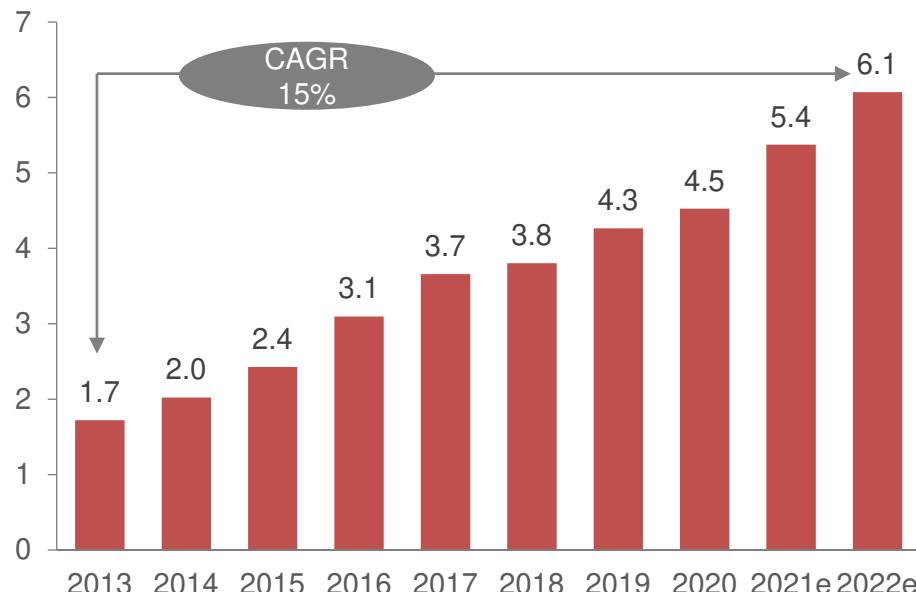
中国保険業界及びインシュアテックの概要

中国保険市場規模

中国の2020年における元受保険料^{※1}は4.5兆元に達し、2022年には6兆元を超えると見込まれ、2013年から2022年の平均成長率は15%となっている。

2019年の世界保険市場ランキングTOP10を見ると、中国は世界第2位で日本を上回り、Swiss Re Instituteの予測によると、2030年代半ばには、中国が米国を超え、世界第1位の保険市場になるとされている。

中国元受保険料の推移(単位:兆元)



出所:中国産業信息、公開情報より山田コンサル作成

2019年 世界保険市場ランキングTOP10

順位	国・地域名	保険料 (単位:億米ドル)
1	米国	14,035
2	中国	6,283
3	日本	4,141
4	英国	3,040
5	フランス	2,478
6	ドイツ	2,251
7	韓国	1,806
8	イタリア	1,501
9	カナダ	1,270
10	台湾	1,220

出所:Deloitte、中国銀保監会、前瞻産業研究より山田コンサル作成

※1:保険会社が、保険契約者から保険を引受ける対価として領収する保険料のこと

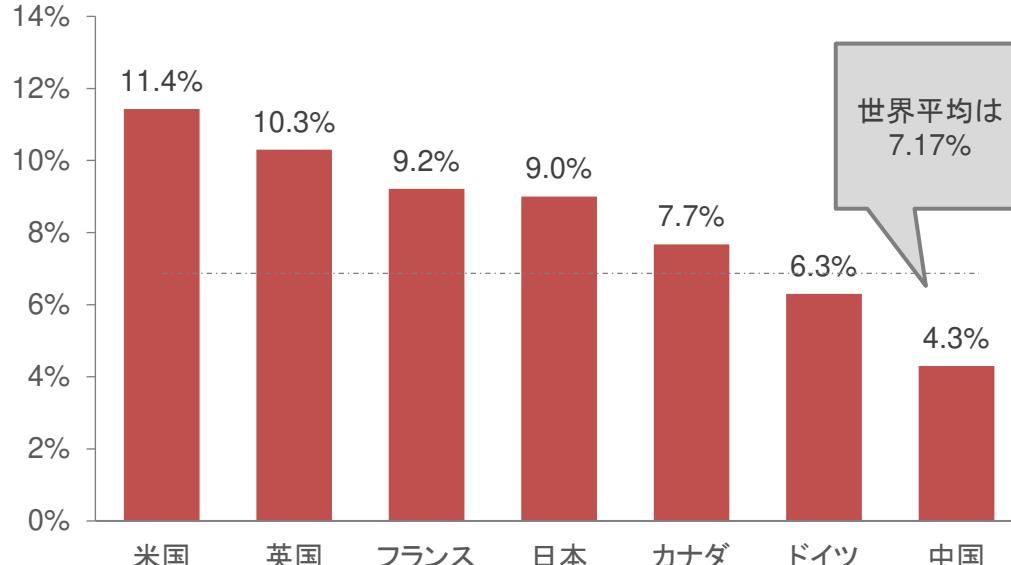
本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものです。弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分:SC-B

中国保険市場の潜在性

世界第2位の中国保険市場であるが、保険深度※1は世界平均7.17%に対して中国 4.3%、保険密度※2においても世界平均375ユーロに対して中国317ユーロと、先進国と比較して低くなっている。このことから、中国保険市場は未成熟であり、今後発展のポテンシャルが大きいと言える。

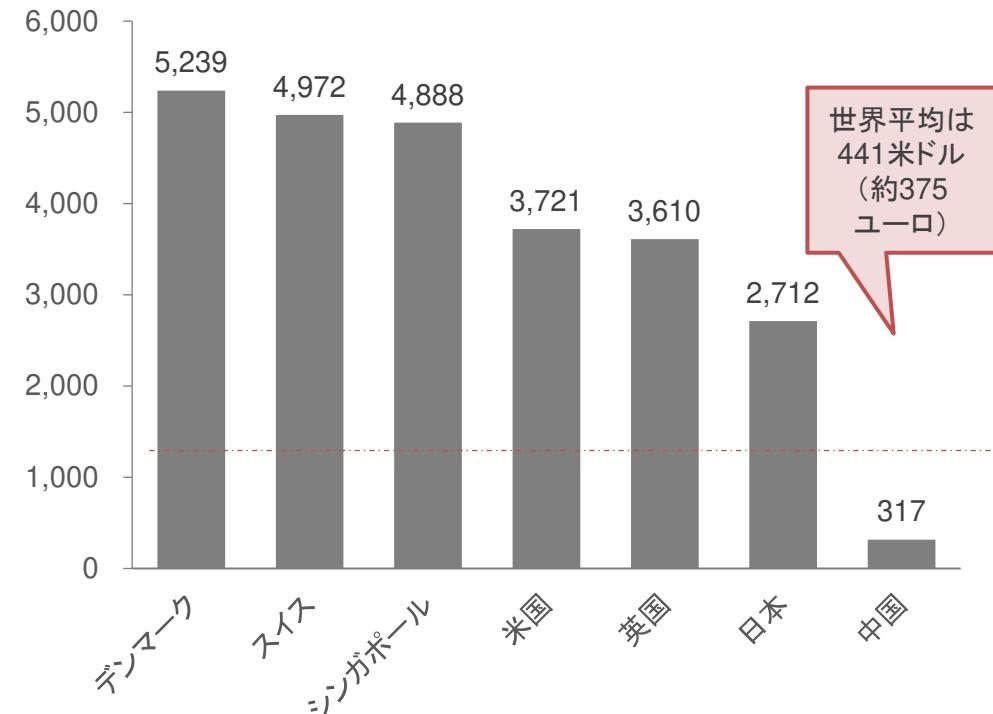
2019年 世界主要国の保険深度



出所: Statistaより山田コンサル作成

※1:GDPに占める保険料収入の割合

2019年 世界主要国の保険密度(単位:ユーロ)



出所: Statistaより山田コンサル作成

※2:国民1人当たりの保険料

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものですが、弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

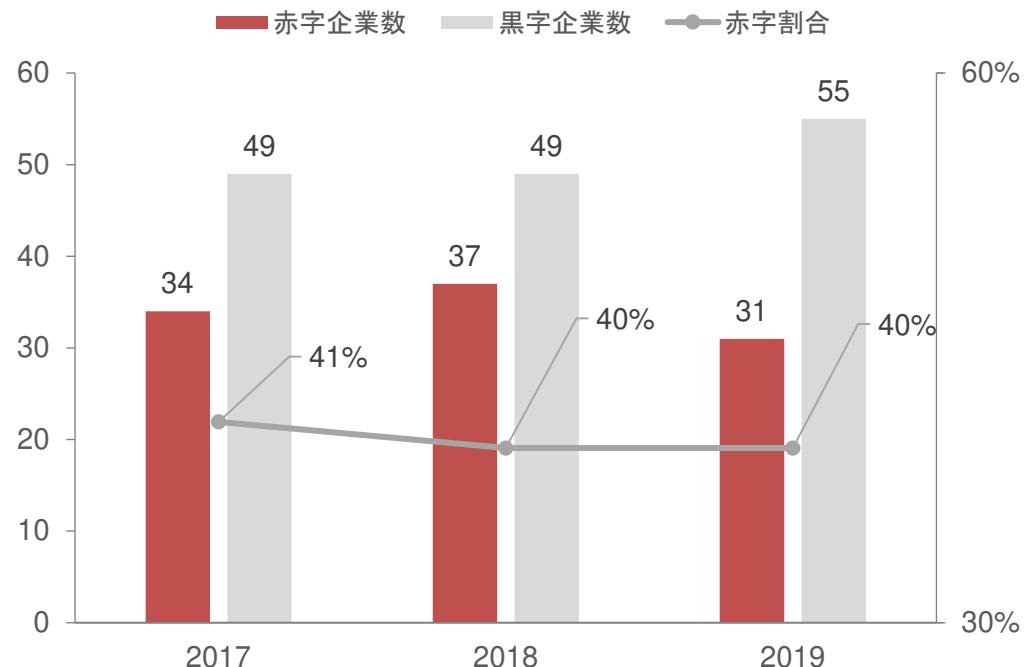
© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分:SC-B

中国保険業界の課題(1/2)

中国保険市場は大きいが、赤字企業が多いという課題がある。2017～2019年における中国損害保険会社の経営状況を見ると、約40%が赤字経営となっている。

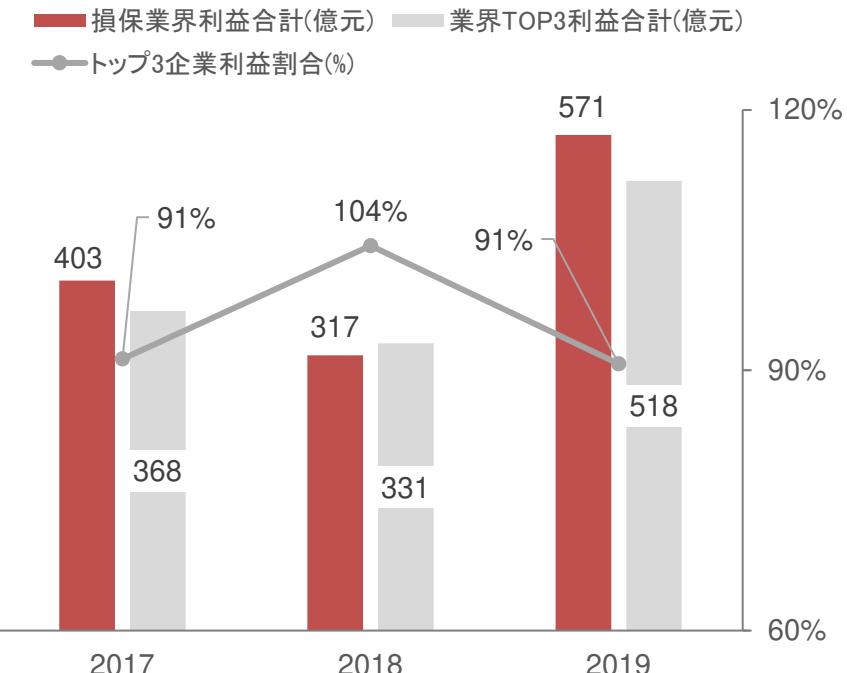
中国損害保険会社TOP3の利益が業界全体の90%以上となり、トッププレイヤーが市場を寡占しているため、中小企業が苦境に立たされていることが分かる。

中国損害保険会社の経営状況



出所:中国銀保監会より山田コンサル作成

中国損害保険会社TOP3の利益シェア率推移

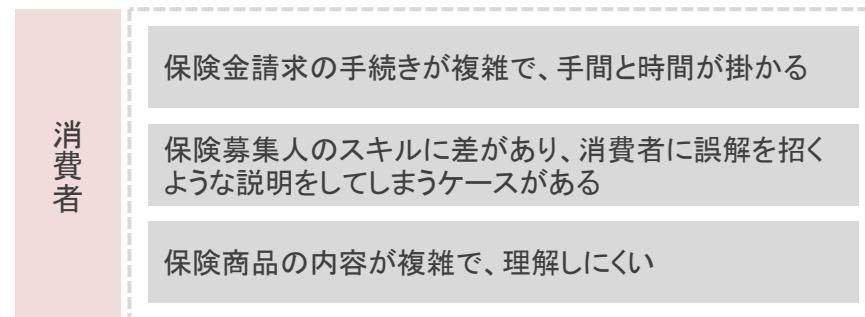
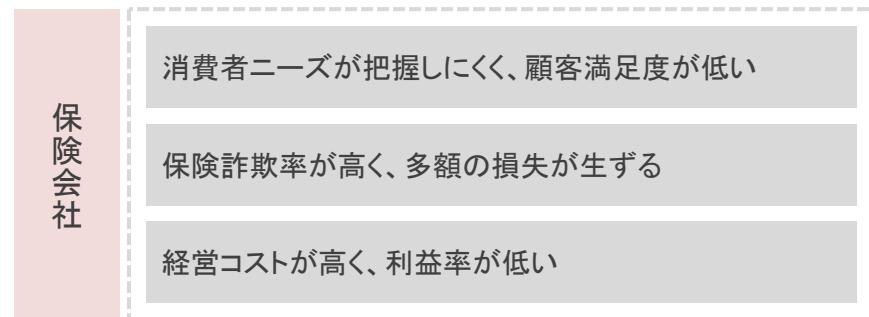


出所:中国銀保監会より山田コンサル作成

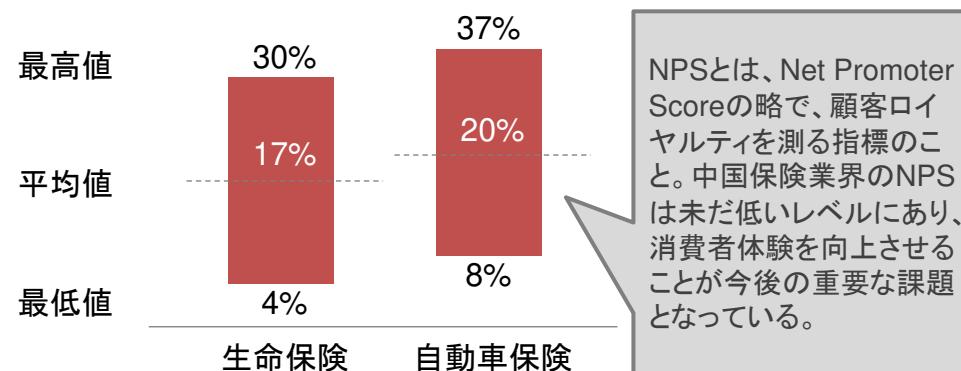
中国保険業界の課題(2/2)

従来の中国保険業界において、保険会社では、消費者ニーズが把握しにくいこと、保険詐欺による多額の損失が発生すること、利益率が低いことが課題となっている。一方、消費者にとっては、保険金請求の手続きが複雑なこと、保険募集人から誤解を招くような説明を受けること、保険商品の内容理解が難しいことが課題となっている。

中国における保険会社と消費者の課題

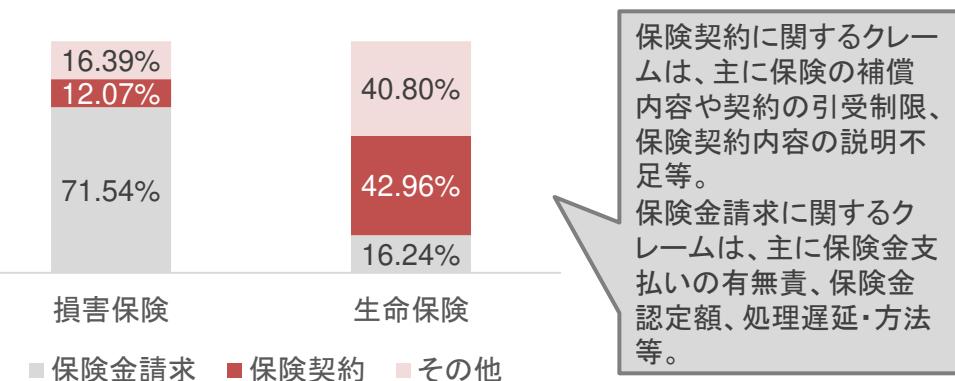


2020年 中国保険業界のNPS



出所: 2020年中国保険業NPS白書より山田コンサル作成

2020年4Q 中国保険業界の消費クレーム状況



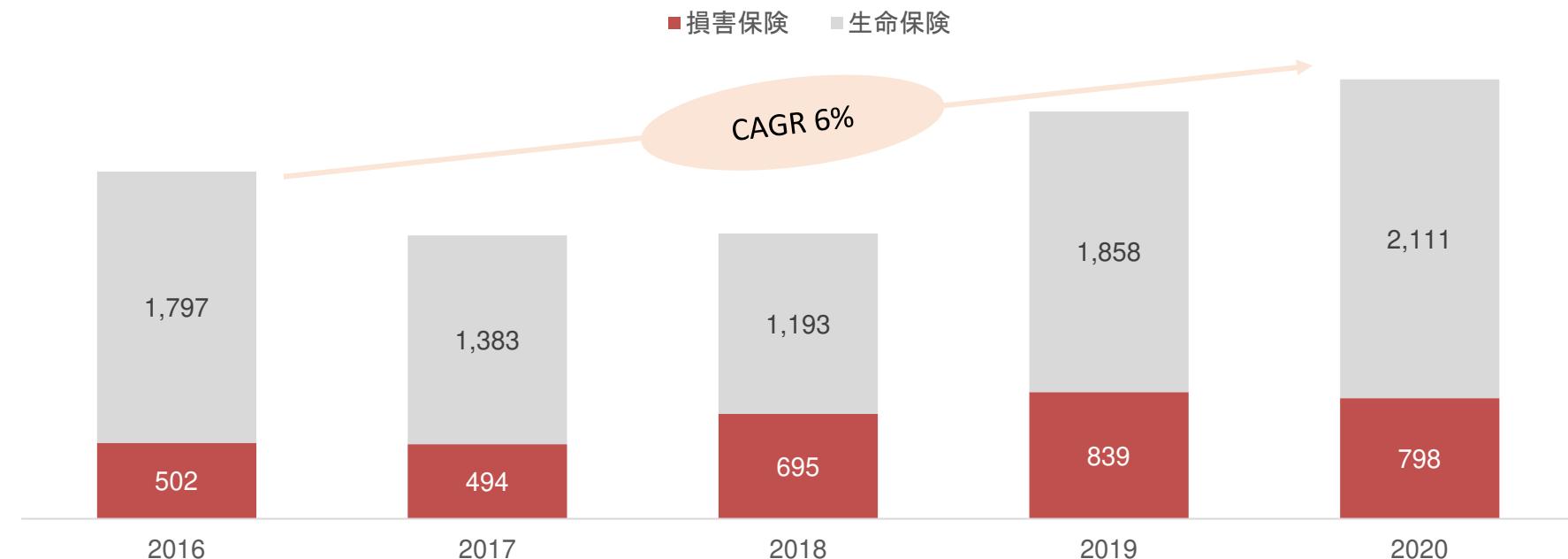
出所: 中国銀保監会より山田コンサル作成

中国インターネット保険市場規模

これまで述べてきたように、中国保険業界では、従来の保険サービスやインフラが貧弱であり、消費者ニーズが十分に満たされていなかったこと、保険会社の利益率向上が求められていること、そして、急速なデジタル化や政策の後押しを背景に、インシュアテック市場が発展している。更に、COVID-19の発生を受け、インシュアテックを活用し、人の手を介さない非接触型の活動への需要も高まっている。

中国インターネット保険料の収入推移を見ると、2016年の2,299億元から2020年には2,909億元となっており、2012～2016年の急成長に対し、それ以降は安定的に成長を遂げていることが分かる。

中国インターネット保険料収入推移(単位:億元)



出所: 信達証券より山田コンサル作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものですが、弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

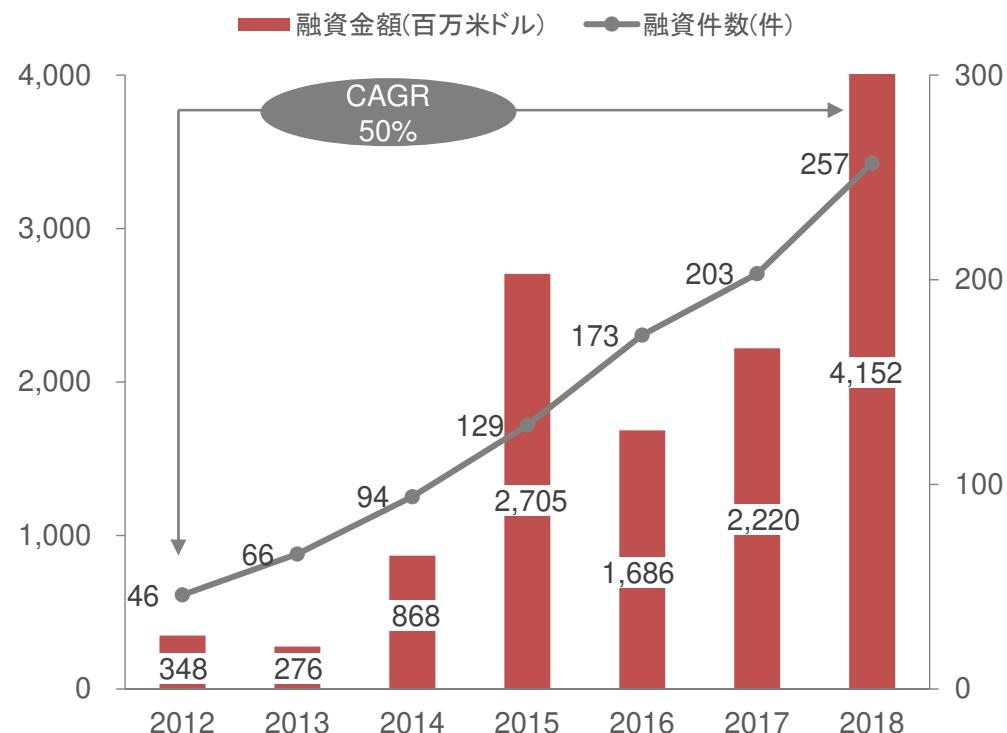
© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分:SC-B

インシュアテックの定義と世界のインシュアテック分野における資金調達動向

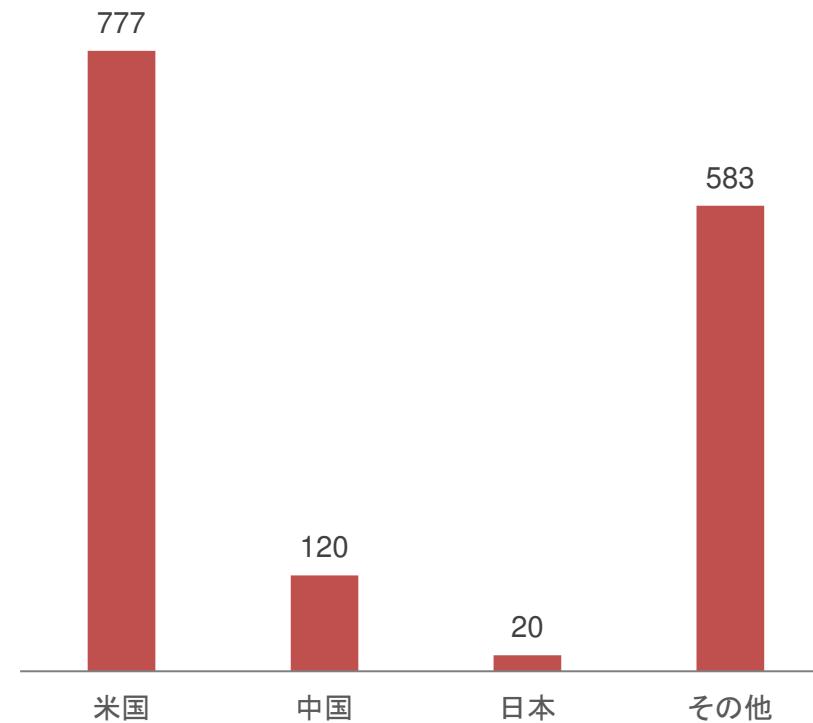
「インシュアテック(InsurTech)」とは、保険(Insurance)とテクノロジー(Technology)を掛け合わせた造語で、保険に関するスタートアップや先進テクノロジーの総称でもあり、保険会社を中心とした革新的な保険のビジネスモデルでもある。

CB Insightsのデータによると、2018年の世界インシュアテック分野における資金調達額は、41.5億米ドルに達し、2012年からの年平均成長率は50%となっている。日本は世界第3位の保険大国であるものの、2017年におけるインシュアテックスタートアップ企業は20社しかなく、米国や中国と比較すると非常に少ない。

世界インシュアテック分野の資金調達額※1・件数の推移



2017年 世界インシュアテックスタートアップ企業数



※1: ファンド・事業会社等からの資金調達を指し、金融機関からの融資は含まない

出所: CB Insightsより山田コンサル作成

出所: 公開資料より山田コンサル作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものです。弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

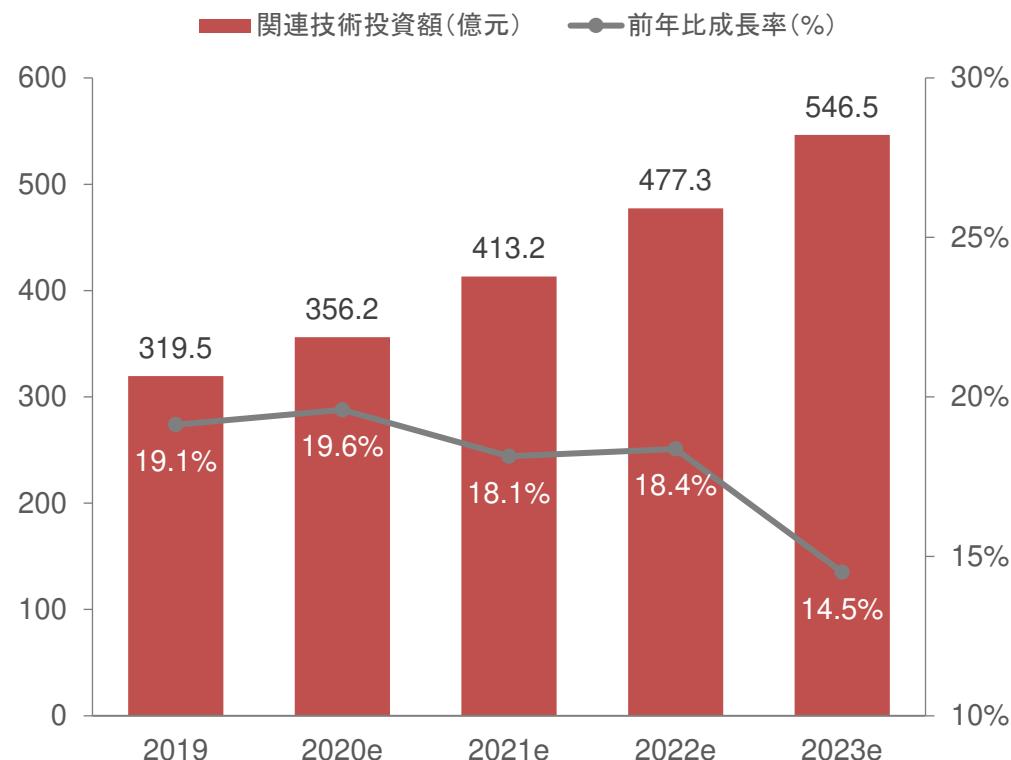
© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分:SC-B

中国インシュアテック分野の投資及び資金調達動向

中国保険会社のインシュアテック関連技術への投資額推移を見ると、2019年は319.5億元、2023年には546.5億元に達すると見込まれており、従来型の保険会社においても積極的にIT技術へ投資を行っていることが分かる。

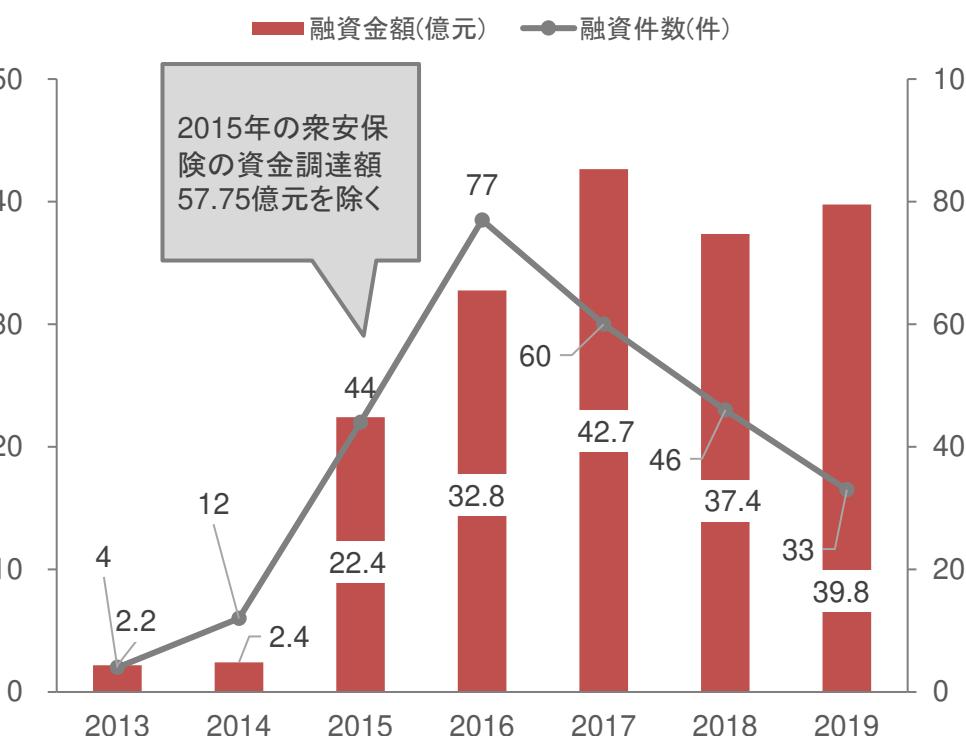
資金調達の状況についても、2015年を皮切りに資金調達額が増加し、2019年には39.8億元と活発化している。

中国保険会社のインシュアテック関連技術への投資額推移



出所:i Researchより山田コンサル作成

中国インシュアテック分野の資金調達額※1・件数の推移



※1: ファンド・事業会社等からの資金調達を指し、金融機関からの融資は含まない

出所:IT桔子より山田コンサル作成

中国インシュアテック分野の代表企業紹介

従来型の保険会社 中国平安保険

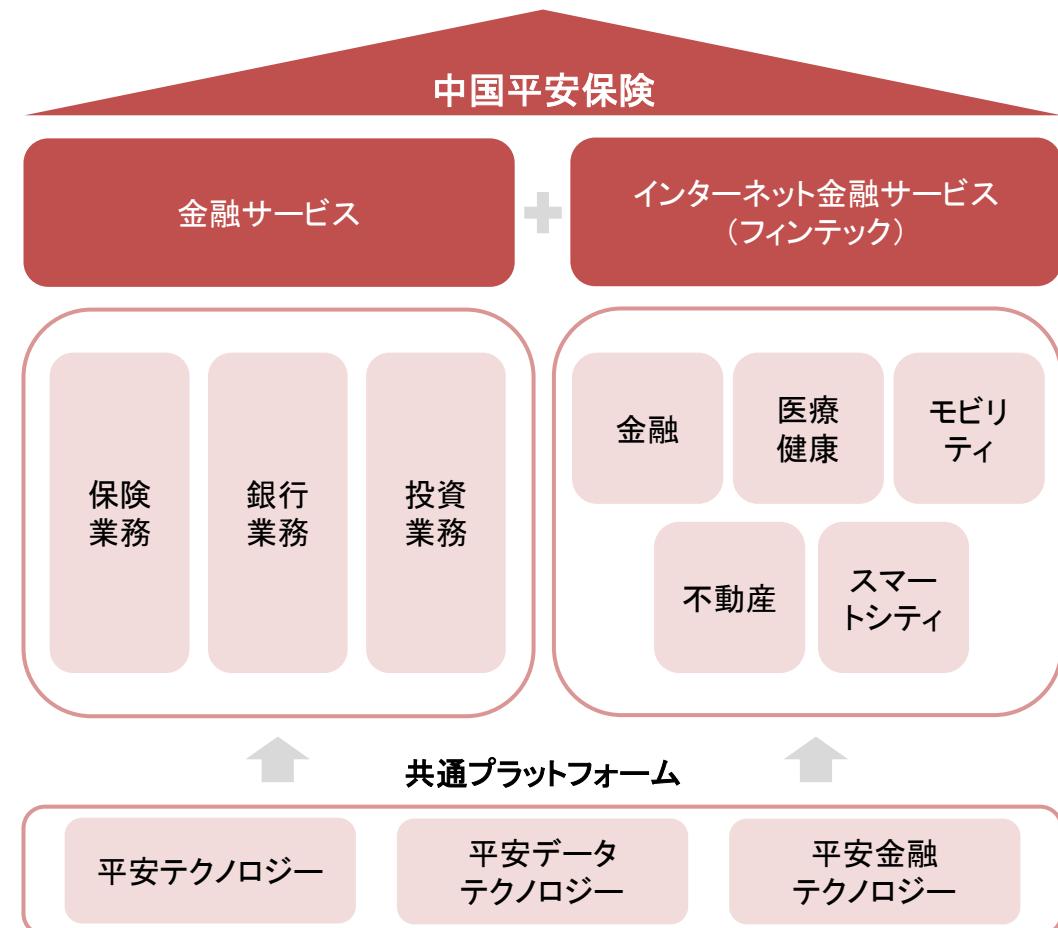
中国平安保険は従来型の大手保険会社であるが、2017年からのフィンテック分野への積極的な投資を通じて、成長戦略及び事業の在り方を大きく変えている。

企業概要

- 既存の保険、銀行、投資事業に加えて、フィンテックを4大事業の1つに据えている。
- 「IT+総合金融」を戦略の柱とし、特にP2Pレンディングなどの個人金融資産の活用や医療・ヘルスケア分野を重点にし、世界のトップを目指している。

企業名	中国平安保険(集団)股份有限公司
設立年	1988年
所在地	深圳
従業員	372,194人
売上高	1兆2,183億元(2020年度) うち、IT技術関係のイノベーション事業(陸金所、金融壹帳通、平安好医生等)の売上は903.75億元となり、昨年同期比10.1%増加
純利益	1,431億元(2020年度)
HP	www.pingan.com

中国平安保険の成長戦略



出所:HPより山田コンサル作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものです。弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分:SC-B

インターネット専業保険会社 衆安保険

衆安保険は、中国初のインターネット専業保険会社であり、IT大手のアリババ、テンセントや平安保険等からの出資により設立された。保険商品は、健康、消費者金融、自動車、ライフスタイル消費、旅行の主な5つのカテゴリーで構成されている。

企業概要

- 従来型の保険会社では、取り扱うことのなかった少額保険を提供し、これまでターゲットとなっていた中間所得層以下の個人顧客を取り込むことに成功。
- 消費者目線で、利便性の良い保険商品を短期間で提供し、契約者ニーズや保険支払い状況の変化を見ながら、改良を繰り返している。
- また、基本的に保険販売のための店舗を設置しておらず、保険によっては、ネット決済やスマホのアプリを活用して、加入から給付までの手続きを全てネット上で行うことが可能。それにより、店舗の開設や維持、保険の各種手続きにかかるコストを抑えられ、その分を保険料の引き下げや商品開発に向けることができている。

企業名	衆安在線財産保険股份有限公司
設立年	2013年
所在地	上海
株主(TOP3)	蚂蚁金服 13.54%、腾讯计算机系统 10.21%、平安保险 10.21%
従業員	2,898人
売上高	167.1億元(2020年度)
純利益	5.5億元(2020年度)
HP	https://www.zhongan.com/

保険事業内容

- 健康**
カスタマイズ、パーソナライズ、インテリジェントな医療健康保険が主要商品で、主なブランドは「尊享e生」、「步步保」、「滴滴車主保障計画」等。
- 消費者金融**
高度な技術力を通じて、インターネット金融プラットフォームを商品設計、リスク管理、オペレーション等の面でサポート。
- 自動車**
平安保険と提携し、インターネット自動車保険「保骉自動車保険」というブランドを立ち上げ。また、オンライン自動車売買プラットフォーム、自動車販売金融会社、自動車OEM会社と提携し、自動車のエコシステムを構築。
- ライフスタイル消費**
ECプラットフォーム、オフライン小売プラットフォームに対して、製品品質・物流・アフターサービス・店舗保障等のリスク補償サービスを提供。
- 旅行**
オンライン旅行プラットフォームに対して、航空機事故保険、航空遅延保険、キャンセル保険等の商品を提供。

出所:HPより山田コンサル作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものですが、弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分:SC-B

インシュアテックが中国保険業界にもたらした変化

顧客満足度の向上

ビッグデータ、AI、ブロックチェーン、クラウドコンピューティング、IoT、モバイル・インターネット、VR、遺伝子工学などの技術活用を通じて、中国保険業界では、顧客満足度の向上やコスト削減及び売上高の拡大が期待されている。

保険商品の多様化

- ・ビッグデータ等の分析により、顧客の保険ニーズを把握しやすくなり、少額決済の保険商品など、様々なニーズに対応した保険商品が登場

消費者基盤の拡大

- ・インターネットサイトやアプリでの保険手続き及びチャットボット等による24時間のサービス体制などによって、遠隔地の消費者も保険の購入がしやすくなる
- ・保険商品の多様化により、中間所得層以下の消費者も手が届きやすくなる

保険料の最適化

- ・ビッグデータやIoT等の活用により、正確で合理的な保険料の算出が可能に
- ・保険販売のプラットフォーム化により、保険料の透明性が増す

マーケティングの最適化

- ・ビッグデータやAI等を通じて、各保険商品のターゲットが明確化しやすくなり、最適なチャネルの選択とマーケティングの投下が可能に

付加価値のあるサービス提供

- ・スマートウェアラブル端末による健康管理サービスやドライブレコーダーによる事故モニタリングなど、関連領域での無料サービスを提供

ユーザーエクスペリエンスの向上

- ・クラウドコンピューティングや顔認証技術などにより、保険契約や保険金請求等の関連手続きが、オンラインで完結できるようになる
- ・保険関連の書類をインターネットサイトやアプリで管理できるようになる

出所: 公開情報より山田コンサル作成

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものですが、弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分:SC-B

コスト削減の実現

i Researchの調査によると、インシュアテックの活用により、中型損害保険会社では、2019年から2025年にかけて、6.6～8.9%のコスト削減ができるとのデータがある。

インシュアテック活用によるコスト推移

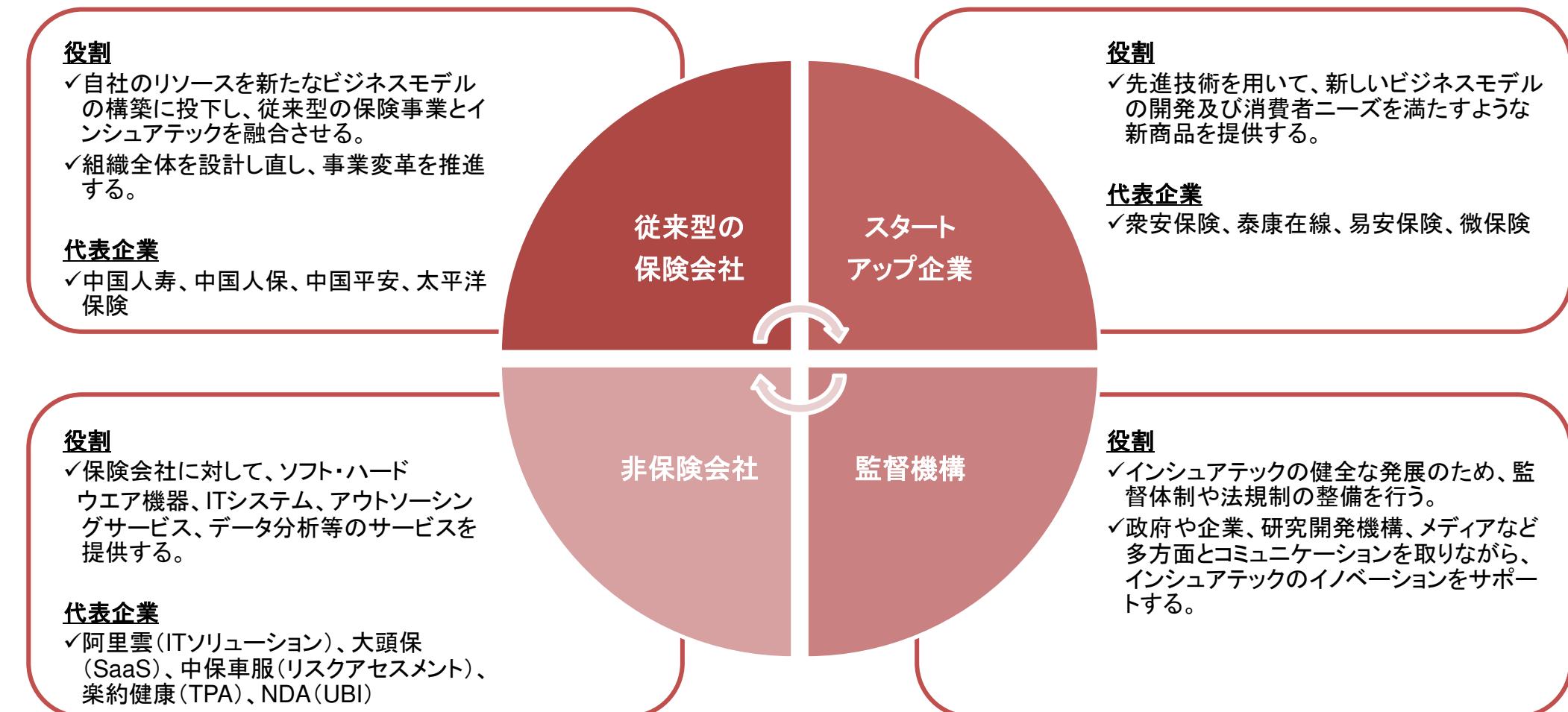


コスト削減手法	効果
① マーケティングチャネルの最適化	▲1～2%
最適なマーケティング投下とAIによる保険商品の推奨により、保険募集人のコミュニケーション費を削減。	
② 正確で合理的な保険料算出	▲1.2%
ビックデータ分析による顧客識別により、顧客獲得費用が0.8%増加するも、2%の保険金支払いを削減。	
③ 不正・詐欺の防止	▲1.8～2.7%
中国保険業界の詐欺率は約10～15%、自動車保険は約20%。ビックデータとAIにより、不正・詐欺を20～30%改善可能。	
④ 保険プロセスの自動化	▲0.9%
オンライン契約などにより、管理コストの削減が可能。	
⑤ AIの導入	▲1～1.4%
AIによるカスタマーサービスや保険の自動引受等の活用により、オフライン店舗の削減や人件費の削減が可能。	
⑥ パブリッククラウドの構築	▲0.7%
パブリッククラウドの構築により、ITインフラへの支出と運用コストを削減可能。	

出所:i Researchより山田コンサル作成

新しいエコシステムの構築

従来型の保険会社、スタートアップ企業、非保険会社、監督機構は、それぞれの強みを活かし、インシュアテックを用いて事業変革を進め、中国保険業界における新しいエコシステムの構築を行っている。



出所:公開情報より山田コンサル作成

日本企業が中国保険業界から得るヒント

- ✓ 中国のインシュアテック業界は、急速に進むデジタル化や政策の後押しを背景に発展してきており、世界的にもパイオニアのような存在である。消費者も日常的にキャッシュレス決済を利用するなど、デジタル技術の活用に慣れており、社会のイノベーションに対する抵抗感がほとんどなかったことも要因と言えるだろう。
- ✓ 一方、日本は世界第3位の保険大国であるが、デジタルインフラが中国ほど普及していないこと、また規制面での制約やエンジニア人材等の不足など、インシュアテックの成長が遅れており、業界のイノベーションがまだまだ進んでいないと言われている。
- ✓ まずは、インシュアテックを受け入れる社会や消費者側の意識を変えていく必要があり、同時に、新しいエコシステムを戦略的に構築していくことが求められている。
- ✓ 2018年には、損保ジャパン日本興亜が衆安保険とインシュアテック分野での提携を行っており、衆安保険のビジネスモデルやテクノロジーを参考にしながら、日本保険市場のデジタルトランスフォーメーションを積極的に進めていく姿勢を見せている。
- ✓ このように、インシュアテックで先行する中国勢と組むという戦略も、日本のインシュアテック市場を開拓する手段の1つになるかもしれない。

執筆:上海現地法人 山田商務諮詢(上海)有限公司
(山田コンサルティンググループ株式会社 中国現地法人)

本レポートに関するご感想、ご質問は下記問合せフォーム、またはメールにてお寄せ下さい。

https://www.yamada-cg.co.jp/contents/international_business/

メールの方はこちら

global-support@yamada-cg.co.jp

本資料は、現在弊社が入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものです。弊社は、その資料及び情報に関する信憑性、正確さを独自に確認していません。本資料において一定の仮定を用いた試算を行っている場合、その試算結果は仮定に基づいた概算であるため、別途詳細な検討が必要です。本資料は貴社内での参考資料としてのご利用を目的として作成したものであり、他の目的で利用されること、本資料の貴社外でのご利用もしくは第三者への開示がなされることのないようお願い申し上げます。

© YAMADA Consulting Group Co., Ltd. 情報管理区分:SC-B